

GOVERNORS LETTER

*Alkina
Kaizumi*



We Serve

1988~1989 No.2

333-C地区ライオンズ憲章

われわれは、ライオンズクラブ草創の原点にたちかえり、その崇高な精神を信奉し、会員である誇りと自覚をもって、ライオニズム永遠の発展に寄与するため、会員の総意を結集し、ここに地区ライオンズ憲章を制定して、その理想実現に邁進するものである。

1. 単位クラブの尊厳と自主性を尊重しよう。
2. 奉仕の根源は愛であることを確認し心をこめて精進しよう。
3. 友情によって相互理解と強固な団結をはかろう。
4. 組織の簡素合理化と経費の節減につとめよう。
5. グッドスタンディングとは積極的参加の意欲であることを理解し指導力の開発にはげもう。

目 次

討論会「開かれたアイバンクをめざし」	3
YE NEWS	12
LEO. LS NEWS	15
CAB NEWS	15
ACT NEWS	15
333複合地区ニュース	24



We Serve

討論会

開かれたアイバンクをめざし

1988・9・16

ホテルサンガーデンららぽーと



アイバンクをテーマに開催した討論会。
写真④ 小泉ガバナーが立っている。

司会 L.高橋 弘(献眼・献腎・献血・推進・地区委員長 (船橋 L. C))

〈出席者〉

L.小泉 昭氏(ライオンズクラブ国際協会333-C地区、
地区ガバナー、船橋 L. C)

L.小石 税氏(ライオンズクラブ国際協会333-C地区、
PR情報委員長、船橋ポート L. C)

L.長谷川一吉氏(ライオンズクラブ国際協会333-C地区
1 Z Z C、市川 L. C)

L.高橋 弘氏(献眼・献腎・献血推進委員長、船橋 L. C)

L.秋場 寛氏(財、千葉県アイバンク協会理事長、333-

C地区名誉顧問、上総一宮 L. C)

L.吉野正三氏(財、千葉県アイバンク協会事務局、上総
一宮 L. C)

L.佐土一正氏(船橋 L. C)

L.鈴木英夫氏(千葉県アイバンク協会常任理事、眼科医)

田中聖士氏(船橋市衛生部長)

中村 忠氏(船橋市保健衛生部健康管理課長)

(文中の敬称略)

.....
現在、全国的に献眼運動の輪が大きく広がっています。この献眼運動については、それぞれの地域で、ライオンズクラブの献身的な活動が「生みの親・育ての親」の役割を果たしています。千葉県の場合、LCが母体になって、昨年、千葉県アイバンク協会を設立しましたが開かれたアイバンク活動を広め、500万県民の運動に発展させるにはどうしたらいいか。これが大きなテーマになっております。そこで、PR情報委員会は、関係者にお集まりいただいて、討論会を開催しまして、今後の献眼運動の在り方について討議を深めていただきました。クラブのみなさまにおかれましては、献眼運動について、ご理解をいただければ、幸いに存じます。この討論会の内容等について、ご意見をおきかせいただき、県内の献眼運動の発展に少しでもお役に立ちたいと願っております。
.....



We Serve

積極的なご意見を期待

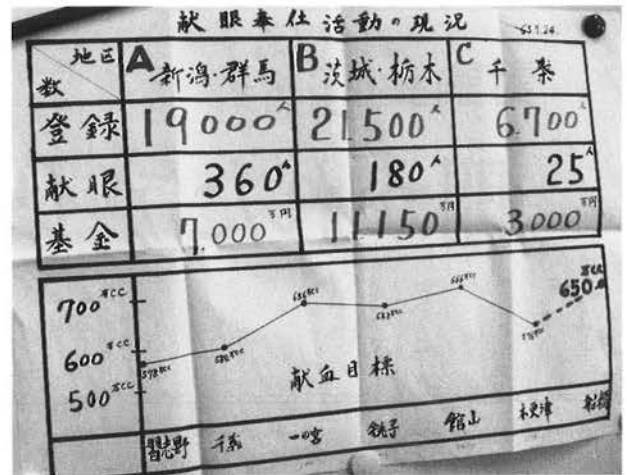
L.小石 PR情報委員長の小石でございます。本日は大変お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。333-C地区ニュースの編集に当たりまして、アイバンクの件について、積極的に提言をしまいたいということで、その第1回として、献眼委員長さんを中心に、この討論会で、ご出席のみなさまの積極的なご意見をおききたいと存じます。高橋献眼委員長を座長としてすすめさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

「親離れ、独立独歩」の道を

L.高橋 委員長の高橋でございます、よろしくお願い申し上げます。本日は、船橋市役所から田中衛生部長さん、健康管理課の中村課長さんも出席をいただきまして、ありがとうございます。千葉県アイバンク協会がございまして、船橋LCとしては、緑化協会をつくりまして、これを民間に早く移行したいという希望があるのに、なかなか「子離れ、が」できないでおります。青年会議所が作った「さざんか募金」がございまして、これもやはり同じだと思いますが、どこまで引きづっていくのか、どこかで「親離れ、をしなくてはならないと思うのです。いまアイバンクの中で、どちらかという、2つの意見に分かれています。その一つが、もうこの辺で、切り離したらいい、という意見と、一方では、まだ弱体だから、もう少しめんどろをみたらいい、と。そこで、出席者のみなさまから、この点も含めて、ご意見をおきかせいただきたいのです。アイバンクについては、A地区の新潟と群馬、B地区の茨城と栃木、C地区が千葉県となっておりますが、登録、献眼、基金については、千葉県がいずれも弱体となっております。従って、千葉県はがんばらなくてはという考えもあります。そこで今回は、地区ニュース討論会のテーマとして、私案ですが、「千葉県アイバンク協会設立提唱者としての役割」というタイトルを考えました。そこで、「親離れ、子離れ、独立独歩」のタイミングに



申し上げます。本日は、船橋市役所から田中衛生部長さん、健康管理課の中村課長さんも出席をいただきまして、ありがとうございます。千葉県アイバンク協会がございまして、船橋



ついて討論してみたいと考えます。よろしくお願い申し上げます。あとで、早期論者は○印、長期論者は△印、中間派は×印といきましょうか。それでは自己紹介を兼ねてご意見をおきかせいただきます。初めに小泉ガバナーのごあいさつをお願いします。

アイバンクの理解を深め

L.小泉 地区ガバナーの小泉でございます。本日はご多忙のところ、ご参集をいただき、ガバナー方針の一環としてお願いしました、討論集会を催して下さったことに感謝いたします。



ライオンズクラブも、いちじるしい世界状況の変貌に対応して、変化を求められる時代になっております。短絡的にそうは言ってみても、さてどうすれば、という段階になると、そう簡単な事柄ではないと思います。そこで、私は、「どうすれば良いのか」を基調に、地区運営の中で、多少でも流れを変えてみることに心掛け、傘下クラブに対しては、勇気ある議論を興して、この大命題に取り組んで頂きたい。そして、出来るだけ機会を増やして、対話の場を作り、マンネリ現象の排除、クラブの活性化、に対処して参りたい、ということ、いろいろな場を通じて訴え、ご理解を願うことに努めております。

この時期に際し、地区に於いても率先して、懸案事項と思われること、或はクラブメンバーの関心事項等を取りあげて議論を展開し、メンバー各位の論議の資料とさせていただきます、と云う念願のもとに、この討論集会企画をお願いしたような次第でございます。第1回目と



We Serve



して、アイバンク問題を、今日のテーマに設定していただきました。お話の出ています通り、アイバンク協会と、ライオンズクラブの関係は、切っても切れないもの、という認識は否定出来ません。それは、全国レベルで見ても、ライオンズクラブに依って発足が促され、これによって育成されている、と云うのが実情だからであります。当地区においても、全くその通りの経過となっております。

ただ、当地区の場合は、地区分割独立の経緯からして、千葉県アイバンク協会、の設立に関与して未だ5年程度であり、内容に於いても他地区より、立遅れていることは止むを得ないことではあります。この期間、メンバー各位の理解と、大きな支援を得て、年々、協会に対する肩入れは、かなり大きな実績となって現われていると思うのであります。因みに、昨年度は、ガバナー要請により、メンバー夫々が1000円を拠出され、協会の活動資金として活用されるよう、その他の奉仕行為と併せて、活動が推進されました。

一方、これらの推移に対し、地区年次大会に、4 R各 LC 合同提案、として、「財団法人・千葉県アイバンク協会に対する333-C地区ライオンズクラブの今後のあり方について」という問題提起がなされたのであります。その内容を要約すると、

1. アイバンク協会は、ライオンズクラブの占有物ではない。基礎づくりに協力して来た役目は終えた。今後は、開かれたアイバンク協会として、広く県民各層に開放された存在として、本来の事業目的に役目を果たされるべきである。
2. ライオンズクラブが安易な寄付団体の認識を払拭し、旁々、多角的にアイバンク活動の成功を支援しながらも、協会に関しては、各クラブの自主性に委ねるべき

である。

というもので、これが、大会で採択、決議という事になったわけであり。ガバナーの立場としては、大会決定は第1に尊重推進する責務があるのは当然の事柄であります。その後、これに対してかなりの反論をも耳にする所も又事実なのであります。

本年度も、更にメンバー拠出金を要請して、将来の、ある時点、に至る迄は、地区ライオンズクラブが千葉県アイバンク協会に、全面協力すべし。とする考え方で仲々根強いものさえ感じられるのであります。

その他、他地区に於いては、アイバンクに示す熱心な動きが、長期に亘って継続されつつあり、当地区に於ける、その対応等とも絡み、課題は、今後共、尾を引いて行く事も考えられます。

いわゆる、ライオンズクラブが、献眼運動を通じて、アイバンクに協力姿勢をもって、大きな奉仕活動に結びつけようとする結論には、大きな違いはない。と感ずるものではあるけれども、そのプロセスに於いては、今尚、大きな議論があると云う点を認識しないわけにはいかない、と思うのであります。

実は、今日もこれから木更津へ飛び、複合地区内、5県の、アイバンク協議会が予定されておるのであります。

時間の関係で、意を尽くせませんが、大体申し上げた様な状況判断に基づいて、地区の懸案事項、メンバーの関心事項と促え、今日のテーマに選んだわけでありまして、皆様方各々の立場で、忌憚のないご発言、ご討論をお願い申しあげたいのであります。

L.高橋 それでは秋葉理事長さん、よろしく。

アイバンク活動の現状報告

L.秋葉 ただいまご指名をいただきました秋葉でございます。



ます。ふだんから LC のご協力をいただきまして、今日までまいったわけでございます。すでに3年、4年を経過いたしておりますが、この間、私たちは厚生省から、正式な許可は、眼球あっせん業者ということでございますので、あまり、みなさま方、あっせん業者というふうになく、いろんなふうに、アイバンクを、いわば銀行のようなふうにご覧の方が多いようでございます。私たちは、あっ



We Serve

せん業者、眼球を登録してもらって、これを欲しい人がいたら、これをあっせんして、その人に、移殖してもらう。あっせんする場合、そこまでいいわけですが、いままで日本のアイバンク、よその国はあっせんだけでございますが、日本は非常に親切でそれを運んでやったり、その点、だいぶ違うようです。私たちは、どこまでも厚生省から、あっせん業者ということで許可をもらっているのです。私もつねにこれを頭において、まあ、あっせんということで、やってまいりました。おかげさまで、千葉県では、全国でいちばん多い協力病院をもっているのです。よその地区では、せいぜい二つか三つぐらいでございます。千葉県は24の協力病院をもっております。その協力病院が、非常に好意的に、眼球摘出あるいは移殖をしてくれるなど、有利な条件となっております。先ほどの表にありますように、まだ、千葉県は日も浅いので、よその地区からみても、数字的には劣っておりますが、これはやむを得ないことであります。徐々によその地区と同じように、数字の面でも表われてくると、私は確信いたしておるわけでございます。先ほど高橋献眼委員長からお話でしたが、LCとの関係については、いわゆるLCがこれをつくったものでございますので、私は、どこまでもLCが、アイバンクというものに、関係していただきたい。極端にいうなら、「手を引く」ということでなく、あくまで、LCというものとアイバンク協会が両立していただくのが、対外的にも、すばらしいことではないかと考えます。ただ金銭的な面については当局にも働きかけまして、昨年は500万円、本年も500万円の予算を組んでいただくように、県当局に申し入れてあります。だいたい99%やってくれるようでございます。なお資金面でございますが、おかげさまで、いろいろな面から、あるいはライオンズクラブ外からも、資金面の申し込みがございます。ただ私たちはこのアイバンクが全国的に、眼球銀行協会が大阪大学のまなべ教授のもとにございまして、そのもとに、各地区のアイバンク協会が年に何回かお会いいたしまして、日本眼球銀行協会の方針によって、動いているのでございます。従いまして、個人的な考えとか、行動によって、よその地区を乱すようなことはしたくないと、思っております。ただ、対外的に企業からの寄付とか、メンバーのみなさまから申し入れがございますが、現在、日本眼

球銀行協会といたしまして、大蔵省と折衝中でございます。寄付の場合、免税の扱いができるように折衝中でございます。ただ大蔵省の考えをきいてみますと、何かそれに見合うものがないと、許可ができないとのことです。協会としては緊急資金として、各大学に、年間30万円なり50万円なり、器械の購入とかあるいは研究費として提供するとか、公の用途をもとに、ということで、大蔵省と折衝いたしております。すぐとまでいかないにしても、いずれ解決していくものと私は考えております。この点について、ニュースの1号、2号に書いてありますが、やはり、早期にしる、長期にしる、私は中間派という立場だろうと思うのです。

L.高橋 ありがとうございます。それでは市川・浦安地区の長谷川さんからご意見をおきかせいただきます。

アイバンク設立の経緯

L.長谷川 さきほどお話をいただきました秋葉元ガバナー



におかれましては、設立準備も含め設立されてからも、足かけ5年の間、アイバンク協会に対して、献身的に、理事長としてご努力いただきまして、敬意を表します。まず、設立準備資金につ

きましては333-C地区の資金援助によりまして、私どもがアイバンク協会に対しまして、全面的な協力をしてももらったわけでございます。橋口ガバナーの当時、これから3年をメドとして、アイバンクに対して協力していきたいと、333-C地区として協力していきたいというお話がございました。そういう経緯がございまして、その後、平井ガバナー、昨年度の手塚ガバナーのご努力によりまして、例えば、1人いくらということで、ライオンズとして、4300万円に達しているということでございます。昨年度については、千葉県からライオンズクラブへの援助として、補助金が出るようになったと。資金面でも機構面でも、ライオンズとしての基礎づくりが終わったのではないかと考えるわけでございます。千葉県アイバンク協会は、ライオンズクラブ・アイバンクではないと。文字通り、千葉県民500万人対象のスケールの大きなものへ脱皮すべきではないのか、と、考えるわけでございます。従っていつまでもライオンズクラブに頼り切っていくのはどんなものかと。あくまで千葉県民500万人と



We Serve

いう視野のもとに。しかも財団法人という立派な組織をもっているのだから。千葉県民500万人の総意にもとづく団体に脱皮すべきではないのかと考えるのです。それが100歩前進することになると考えるのです。これは100歩後退ではないと思うのです。千葉県アイバンク協会に対して、ライオンズクラブは、内部干渉するのはあまりよくないと考えるし、ただライオンズクラブの関与している面につきまして、また、ライオンズクラブも一県民でございます。以上が私の考えているポイントでございます。これは、かつての「決議」にもとづいて申し上げているわけございまして、もっと県民全体の協力援助が必要ではないかと考えるのです。そういう努力がなされているのか、わかりにくい面もございまして。企業にとりましては、税金面にふれぬ援助の仕方もあると思えますし、そういう面も含めて、もう少し、全体の、大きな観点から、対処するのが、成長の過程で、必要なことと思うのです。このような方向に向かうのが、これからの千葉県アイバンク協会の姿じゃないのか、私はそう思うのでございます。ライオンズクラブは寄付団体ではないし、あくまでも、奉仕活動の在り方としましては、社会のニーズにそって、問題点をほりおこして、社会の関心を喚起しまして、その解決の糸口をつくっていくことが、つまり新しい道をつくるのが、次ぎなる方向へすすむ、これが私たちライオンズクラブの基本的な条理でなろうかと思うわけでございます。そういうわけで、千葉アイバンク協会の資金援助だけでなく、角膜移植に重点があるのではないのかと。私どもは「大会決議」にもとづいて提案したわけで、反対するものではなく、あくまで新しい視点に立って、アイバンク協会に協力していきたいということでございます。まず1人でも多く角膜手術を受けられるようにするにはどうしたらいいのかと、いうことについて、ライオンズクラブは研究すべきだと思うのです。今後も協力する意味で重要なことだと思うのです。もう一つは献眼登録推進委員会を各クラブに設けて、もっと掘り下げて、献眼登録そのものをどうするのかとすることを考え、協力すべきではないかと考えるのです。これは、これからの協力の在り方だと思うのでございます。資金面についても、強制ではなく任意性において協力する、ということが重要だと思うのです。アイバンク協会のこの事業は崇高なものでございまして

私もこれに対して反対するものではない。献眼登録を一人でも多くするようにするにはどうしたらいいか。これが献眼部会の考え方だろうと思うのです。500万県民の中に自らきり開いていくことに、100歩前進があると思うのです。100歩後退はあり得ない、と思うのです。

L.高橋 それではお医者さんの立場からどうぞ。

他県の経験に学んで1億円を

L.鈴木 私の所属は佐原ですけれど。千葉県眼科医では、



7年くらい前、眼科医がライオンズクラブとして入っていましたが、それがだんだん減って、4人、服部さんを入れて5人でして。秋葉ガバナーが非常に熱心に行っていただけますが、われわれ

末端の会員は、よく浸透していないと思うのです。私が10何年前に、佐原ライオンズクラブ会長をやった時、石川名誉教授は私と一緒に勉強した仲間ですから、千葉大でアイバンクをやるなら、呼びかけてもいいと話したこともあります。しかし、テーマが眼底疾患で、スタッフも少なく、やれないといういきさつがありました。秋葉先生がこういうふうにするということで、安達教授は全国で初めての女性で臨床の教授ができたので、マスコミにだいたい追いかけられて。珍しいものだから。日本医事新報というおおかたの医師がみているウイクリーがございまして、この雑誌の中に、インタビューに答えた記事がありまして、国立大学といっても、アイバンクがない、というくだりがあります。そこで、先生に、千葉にアイバンクができれば、ご協力をお願いしますね、と申し上げたら「それはありがたいことです」と。その他いろいろな先生にもお話し申し上げたところ、「常務理事をやれ」といわれ、角膜移植の経験のある私でよかったら、お引き受けしましょうということでございます。

いままでアメリカあたりから流れてきたアイバンク運動というものが、決してうまくいっていたわけではございません。日本医師会報にもものっていますけど、眼球銀行協会のまなべ先生、順天堂の中島先生等のお話をききましても、アイバンクがうまくいっている時は、仲良くやっていて、資金面でも成り立っているわけで、アイバンクが多額の資金をもっているかどうか、例えば順天堂のように病理解剖で眼球が手に入ること。行政面からの



We Serve



要望から成り立つものとするのです。そもそもアイバンク、つまりあっせん業者といういやな名前をつけられていますが、この設立基準といたしましては、財政および会計については、基本財産からの拠出、会費等の確実な収入によって、永続性があるということを第一条にうたっているのです。千葉県アイバンクというのは2500万円が発足しましたが、みじめなものです。私、アイバンクニュースにも千葉県眼科医会報にも書いてありますが、ご覧になった方もおるかと思いますが、とにかく神奈川県の場合、県が2000万円、葉山市が500万円、川崎市が500万円、横須賀市が100万円それぞれ拠出しています。従ってライオンズは1000万円だけお金を集めればたちまち多額のお金ができることになっています。しかるに千葉県はわずかなお金です。ですから、成功させる第一条件として基金が足りない。せめて1億4000万円くらいないとできないと考えていました。群馬県では1億円くらいのお金をもっている。これくらいないと事業としてはできないと思うのです。

L.高橋 それでは、船橋ライオンズクラブ出身の佐土ライオンでございまして、元日本放送のアナウンサーでございまして。この方は古くから社団法人アイセンターに関係されていて、長野では活躍されていました。この方面でご造詣の深い方です。

LCが献眼運動の推進に

L.佐土 アイセンターをやっておりますが、昭和37年ごろにできたものでございまして。ご当市とは関係が深いのであります。第1回の会長が川島正次郎さんで、千葉県出身の代議士で。これをつくりまして、一番最初にやったのが、アイバンク運



動というか、眼を守る運動でした。その当時は、アイバンクという名前がなかったのです。ニーマンさんという方がこちらへこられてきて、献眼の話がされていまして。私ども、片手間ということで、眼を守る運動をやっていました。石川清先生が私どもの名誉会員として、放送にも出てもらいました。アイセンターはどちらかというと、私が放送の関係なものだから、放送を中心に、アイバンク運動を推進してきたつもりです。昨年10月の目の愛護デーには、1時間の番組をつくりまして、長野県で放送いたしました。これは目があいたという番組でした。その番組を東京でやるということを知りまして、ぜひ、これを全国放送させろという希望がまいてましてそこで、日本テレビから全国放送いたしました。これはどういうことかということ、目の不自由な方が日常不自由なさっていると。あるいはライオンズクラブが、やったものですが、ライオンズから1人1000円ずつ出してもらって、これは放送するために出してもらったのです。VTRをつくって、これを全国で利用してもらってやろうじゃないかと。亡くなった方が、ライオンズクラブの方で、それを撮影したのもライオンズクラブで、そして、眼球をとりに行った先生がライオンズメンバーで、それを病院へもっていく。病院ではライオンズで一生懸命やっている先生もいますが、その先生の手術がVTRに写っています。そして、目があいた、うれしい、という希望にみちた内容のものが20何分かのものとして出来上がりました。これはつい最近のことです。

いわばアイバンクの推進というかPRをして、テレビを通じて、やっているのです。私の出身は船橋ですが、長野におりまして、秋葉さんという人が、アイバンクをつくったぞということを長野で知りまして、私は大変うれしくなりました。実は長野にはアイバンクがないのです。つくりつつあるという段階ですが、驚いたことには全国一の登録者があるのです。現在、6万600人もいます。従って長野県でこれだけの登録者がいますから、目の不自由な人がいないのです。眼球が摘出されたものが、長野県のほか、東京とか大阪、名古屋にも配っているほどです。その点、目の悪い長野の方は恵まれているのです。ところが、私、船橋のライオンズクラブにまいりまして、ビックリしたことは、献眼推進委員長がいないこと。長野には、各クラブにこの推進委員長がおかれています。



We Serve

千葉県のアイバンクは、ライオンズクラブが中心になって作ったと思うのです。途中、親ばなれというご意見もありますが、何か、つくりっぱなしという感じがするのです。例えば資金が3000万円といわれていましたが、この程度の資金ではどうにもならない。これが1億円であっても、その利子は400万円くらいでしょう。これでは、アイバンクが動かないと思います。例えば、1人お亡くなりになると、角膜移植すると10万円かかるといわれています。じゃ、25人以上ふえたらどうなるか。私は、ライオンズクラブの一番大きな仕事がこの献眼運動でないのかな、と思っているのです。私はまだ、船橋にきてまもないので、千葉県のことはよくわからないとおしかりをうけるかもしれませんが、ぜひ、そういうふうにつづけてもらいたいし、アイバンクとしては、300万円、1億円になっても、やりたい仕事はたくさんあると思います。とてもお金が足りない、千葉県からの援助も結構だと思うし、たくさん援助をいただくことはいいことです。ライオンズクラブからも献金してもらいたいし。研究団体として認可されますと、企業からの献金も集まります。研究団体として認可がえられ、基金が1億円というようなことになるまで、眼球銀行をライオンズクラブは推してもらいたいと思います。どこでどういうふうに、地区の大会で決議されたのか。これは初めて、私はきいたのですが、ぜひ、この運動は、ライオンズクラブがしょっていくのだという、そしてつくったのだという。めんどろをみるのだ、というようにしていただきたい。私は、全国のライオンズクラブが、そういうような状況になっていると思うのです。

L.高橋 研究団体ということは……？

L.佐土 研究団体となると、大蔵省がこれを認め、免税措置をとってくれるのです。

L.高橋 では、吉野さんどうぞ。

先進地の経験に学んで！

L.吉野 私は、これまでの経過を申し上げたいのですか、



秋業理事長が、59年7月に、ガバナーに就任されまして、さっそく、断固、アイバンクを設立するのだという、お話でありました。その時、私は、キャビネット幹事をおおせつかったわけで

すが、全くの商売違いでありまして、とまどったのです。県の衛生部の方へ何回となく伺いました。先進地の神奈川県、静岡、山梨、群馬、栃木から資料をちょうだいいたしまして、申請書類をつくりまして、60年4月1日に、県知事の認可をうけまして、その年の5月27日付で、厚生省の眼球あっせんの許可をえました。それから献眼登録の募集について、各ライオンズクラブをお願いをし、この仕事が始まったのでございます。ま、全国で千葉県は40番目でございます。その後に愛媛、福井、ごく最近埼玉にも出来まして、おかげさまで、この三バンクの設立に対して、こちらから、資料を送るような立場になりまして、やっと私も、アイバンクの仕事ができるようになりまして、みなさんのご援助をちょうだいするわけですけれど、60年度の4月から、61年度末までが、ニュースの創刊号にのっています。62年度が、第2号で、基本財産は3000万円でございます。銀行の残高証明、監査もうけていることを掲載しております。各ライオンズクラブからの拠出金、あるいはライオンズクラブでない方からの拠出金も掲載してございます。63年度の前算も、概算を計上してあります。お目通しいただければ幸いです。



L.高橋 吉野さん、愛媛など、最近できたアイバンクはいずれも、ライオンズクラブが中心となってできたものですか。

L.吉野 そうです。全国で85%以上のアイバンクが、慶応とか順天堂とか読売を除けば、ライオンズクラブが中心になって応援しているということでございます。

L.高橋 ありがとうございます。さて、船橋市役所の方、おわかりいただきましたでしょうか。

実情に即した協力体制を



We Serve

田中 ここにまいりまして、お話を伺ったわけですが、



ま、うわつつらだけでしょうが、理解
できましたが、全国的にみて、ライオンズクラブが、力を入れていらっしゃるという現状で、長谷川先生からもお話がございましたが、千葉県全体が、

県民全体でささえていかないといけない。その中で中心になっていくのが、ライオンズクラブで結構だと思うのです。やはりそうしないと、一定の団体だけが、力を入れても、県民全体に浸透していかないだろうと思うのです。県当局のご支援もあるようですが、やはり行政当局のほうでは、県当局が中心にならざるをえないだろうし、私どもも、献血の面では、いろいろ市民に対するPRの点で、市の広報を通じて、やっております。献眼の件についても、私どもの力を必要とすることになれば、私どもも力を入れてみたいと思うのです。資金面ですが3000万円というお話がありました。これをさらに増額しなくてはいけないということになりますれば、県当局も当然考えることでしょうが、県民全体ということで、各市町村レベルでも、協力できることもあるだろうと、思います。こういう窓口は、千葉県の市町会とか、千葉県町村会もあります。的確な市町村のレベルに応じて、総額が決まれば配分するということになるでしょう。いま、船橋市内に、血液センターという事務所があります。あそこを建てる時、やはり、県も他の市長村も必要な資金を出しているのです。公共性が必要だということになれば、このように協力することができると思うのです。いずれにしろ、行政レベルで、どういう役割を荷負ったらいいのか、その点が明らかになれば、それに即した協力体制がとれるだろうというように考えます。

L.高橋 ありがとうございます。力強いお話をいただきました。中村課長さんどうぞ。

行政の立場からも援助へ

中村 行政の立場からについては、ただいま部長から



お話があった通りでございます。ライオンズクラブが、いままで行政に対して、奉仕の精神でもってやられてきたわけですが、これが軌道にのって来るか、行政としては推移をみたくえて、

先ほど部長が申したようにご援助ができるのではないかと思います。

L.高橋 ありがとうございます。これで一週り、ご意見を伺いました。あとは、フリートーキングでご意見を思います。

L.長谷川 佐土さんがおっしゃったことについて。ライオンズクラブがけっして、これから大いに献眼推進委員会を設けて協力しよう。資金面も、クラブの自主性にまかせて寄付しよう。相当額のものでできると思うのです。献眼登録も、角膜移植にあるのだから、いかに献眼に協力するようにするか、ということです。ライオンズクラブは、もう知らないよ、ということではないのです。ただ、500万県民を対象にした「開かれたもの」にしようではないかということです。千葉県アイバンクは立派な財団法人ですから、いかに広く、協力関係をつくっていったらいいか、ということでございます。

L.佐土 私の発言に、少し誤解もあったようですが、よくわかりました。今度は逆の面で、ある団体だけが、オレがやってるんだ、ということになると、行政のほうもやりにくいことになるだろうと思うのです。県民に開かれたバンクとして、やってもらうのは大変いいことだと思うのです。ライオンズクラブが表に立つことでなく、裏の献眼推進ということでやれば……と思うのです。外とくらべ、登録推進が少ないように思うのですが……長谷川さんのお話でよくわかりました。

運動の末端組織の確立を

L.小石 アイバンクのことが、県民の末端まで通って



ないということもありますが、いまいろいろお話を聞きかかせていただいて、どうしたら、市川さんの主旨が通るのかな、と考えてみました。実は、ライオン誌か何かで読んで、小さな村で、ア

バンクのことを一生懸命にやって、おばあちゃんが死んだら、その人のまくら元に、アイバンクのカードがあった。メンバー全員がお葬式に出て、周辺の人みんなアイバンクに協力しているということでした。従って、こういうアイバンクの運動は末端組織が必要だろうと思うのです。市川ライオンズクラブが提唱したことは、正しいことだとし、そういうのを核に、市川なり船橋が、ま



We Serve

ずそれをやって、これを全体に波及するようにしたらどうかと考えるのです。初めから全体といっても、なかなか動けないと思うのです。現実に地区でやっている人が県の協会員になってやれば。アイバンク協会の市川支部とか船橋支部として、具体的にやっていくことが必要ではないかと考えるのです。佐原支部とか一宮支部とか、それぞれの地区で、行政と一緒に市民や町民の方に呼びかけて、やっていったら、もっと盛り上がると思うのです。資金面も積み重ねていけるだろうと考えるのです。私は、それぞれの地区に支部を一日も早くつくって、運営していけばと考えます。資金面については、ライオンズも協力するとか、全体として1億円を目標にやるとか。実は、私どもポートライオンズクラブとして、老人大学をやっていて、1000人の卒業生を迎えることができました。こういう中に、協会支部をつくっていくとか、こういう点も、議題にさせていただきたいのです。

L.高橋 ありがとうございます。

L.吉野 つけ加えますが、ニュースの創刊号に千葉大の足達教授の力強いお言葉をのせてございます。7ページに千葉県アイバンク協会寄付行為とありますが、会社でいえば定款でございます。これを実施するには、県知事の認可が必要となります。創刊号の収支報告は、私なりに、62年度の収支報告は前田先生のご指導をうけまして、財団法人の方式を勉強させていただきました。63年度もこの方式で収支の報告を申し上げるつもりでおります。

L.高橋 ガバナーいかがでしょう。

L.小泉 冒頭に申し上げた様な立場でお聞きしておるところですが、大会決定と、今回の問題提起との関連、が、百歩前進か、後退かの議論は、興味を感じるところです。特にクラブの自主性に委ねるべき云々、に於いて今後を推理するとき、前進論は、正に理想論であり、後退論は、現実感を表しているのではなからうか。この辺りが、合致すると思われる結論に対して、プロセスにおける対応のむずかしさを感じました。それは、促え方の問題でしょうから、メンバー各位の判断材料として、面白い展開だと思います。一つだけ気になることは、今ここに、早期改革論側から届けられた、クラブ会報がありますが、書かれてある通りの中で、やゝもすると、主張の根底に、感情論が混じっていやしないか、という点も耳にするとところなのですが、基本的には、献眼活動に

大協力の至情からの発露に違いないことが、縷々説明されているのであって、相互の理解によって、今後整理されて行くことを希みたいと思います。

L.秋葉 本日のご意見をいろいろ参考にいたしまして、アイバンクに生かし、精魂こめて、運営をしていきたいと、かように考えております。ただ、千葉県民500万人のアイバンクということで、私、沼田知事にも何回かおめにかかりました。県として年間500万円の予算を立てるから、と申されました。

L.高橋 人事の刷新について……。

長谷川 ほかの企業とか、公共団体のすべてを総合した中で、もうらされたほうが良いと思います。つまりライオンズだけのものではなく、もっと広く開かれた人事が必要ではないかと考えます。

L.秋葉 現在、県内20団体が加わっています。

L.高橋 おおむねご意見もお出しいただいたと思います。本日の討論をまとめて、クラブのみなさんに読んでいただいて、全体として理解を深めることができれば幸甚です。本日は本当にありがとうございました。では最後に小泉ガバナーどうぞ。

L.小泉 今日はお忙しい中、又、スケジュールの関係で、制約された時間帯で、活発な討論をしていただきましたことを感謝いたします。必ずや、メンバー各位のご参考に供し得たことと確信いたします。

更に、いくつかのテーマを設定して、今後もこのような機会を作って頂きたいことをお願いして居るところでございますので、是非とも趣旨をご理解下さって、宜しくお願いを申し上げたいと存ずる次第でございます。

ご苦勞様でした。本日設営にお骨折下さったPR情報委員会、並びに担当委員長、それに、ご参加願いました各位に厚く御礼申し上げます。有難うございました。





We Serve

YE NEWS

YE生を迎えて

松戸東ライオンズクラブ
国際協調・YE委員長L. 関川 和 則

わがクラブでは5人目のYE生をマレーシアからTAN SZE HUI さんを受入れ、細山田L及び関川Lの家庭でホストしていただいた。

7月24日成田で出迎え、8月6日に見送るという2週間の短期間であったため、十分な国際交流にならず残念であった。しかしクラブとしてもホスト家庭としても非常に有意義であった。

彼女は良家の子女らしく、礼儀正しく賢明で知識欲も旺盛であった。彼女のレポートを読むと、日本はすべて西欧化されていると聞いて来たがまだ伝統的生活様式であったこと、東京の地下鉄網の便利さに感心したこと、そして乗客の日本人が若者ばかりでなく大人さえもマンガを読んでいるのに驚かされたこと、サマーキャンプで各国のYE生と交流ができ楽しかったことなど、極めて知的感覚で所感が述べられていた。



クラブYE生歓迎例会に出席し、メッセージを読む TAN SZE HUI



クラブYE生歓迎例会に出席し、会長とバナーを交換する TAN SZE HUI



クラブ例会に出席し、感謝の言葉を述べる TAN SZE HUI

空港で、日本でのママさんと妹さんと彼女がしばらく抱き合い泣きながら別れを惜んでいた姿に、YE委員としてこの喜びを味わうことができた。

各クラブのYE活動が益々活発となるよう願うとともに、わがクラブでも今後続けていくのがクラブの活性化に通じるものと思っている。



町内の盆踊りに、浴衣を着て踊るYE生。そのうしろが関川L。

YE学生レポート

成田LC 岩立 賢一

この留学を通して、自分は大変貴重な思いを多くしました。特にホスト先のリックというおじさんを通して、近所の人たちとレクリエーションができたことと、近くの学校に行き多くの友達ができることがうれしいです。

それにメリバラのライオンズクラブのリック以外の、家族にも四軒位行きました。その中でも、デイルという17歳の男の子とカプリエルという15歳の女の子がいる、ピーターの家では馬に乗せてもらったり、ブッシュウォーキングをしたり楽しいことばかりでした。今でも、彼らとは手紙で連絡を取ったりしている。

自分は料理を作る事が得意なので、お礼に天婦らなどを作ってあげたりした。天婦らは大好評で、イツグッドと喜ばれました。だいたい七回位、日本料理を作ってみました。どれもよろこばれました。オーストラリアは物が安くて、たくさんショッピングをしましたが安くて安くて驚きばかりでした。

自分はゴルフ部に所属している為、絶対ゴルフはしたいなあと思ったけれど、ゴルフクラブのキャプテンがライオンズクラブ関係で知っていたので、社長にも会って何とただで会員にしてもらい大感激でした。十二回コースをまわり、ハンディ（オーストラリア式で）26をとりました。リックもクラブをそろえて、うまくなったし、

We Serve

ゴルフ天国でした。その他にも、メルボルンや、ベンディゴ、スワンヒルなど見物にも、つれていってくれました。メルボルンでは、オーストラリア式フットボール(別名オジーボール)を観戦し、感動しました。

今考えてみると、オーストラリアでは感動ばかりでした。

この貴重な体験も、父母はじめ、ライオンズクラブの皆様のおかげと思って、感謝しております。



ニュージーランド体験記

君津LC 倉原 健

7月18日から8月27日までの約40日間、ライオンズクラブのYE生として、ニュージーランドで過ごし、約2週間ずつ3家庭に滞在し、この国の家族の方々と一緒に生活することによって、色々な経験をすることが出来ました。

ニュージーランドは南太平洋の南西に位置し、日本から飛行機で約10時間半のところにある、北島と南島の2つの大きな島からなっており、26万8千km²で、日本の本州と四国を合わせたほどの大きさである。

人口は3百万人と千葉県の人よりも少ないのだが、その代り、羊が8百万頭もいるという、正に羊の国である。

気候はちょうど日本の季節と反対になるのだが、日本ほど四季ははっきりしておらず、7月、8月の冬でさえ半袖で過ごせる日があるほどだった。その代わり、1日の間での気温の差が激しく、朝夕はかなり冷え込むことが多かった。

僕がオークランド空港についたのも朝の7時頃で、か

なり肌寒く感じるロビーで第一ホストのかたが僕をみつけ、声をかけて来てくれた。第一ホストの方は、オークランドから車で一時間くらいのところにあるワイウクという街で小学校の先生をなさっている方だった。僕も何度かその小学校に連れて行って戴いた。

外国人を見るのは初めてらしく、その生徒達は僕の後をついて来たり、話しかけて来たりと興味津津の様子だった。

又この家には16歳の女の子がいて、日本の高校受験に当たる試験を11月に控えていた。しかし日本のように、受験に向けて毎日勉強ということはなく、毎週木曜日と土曜日は、クリケットやホッケーの試合に行き汗を流していた。聞くところによれば、彼女だけでなく、他の子もそうらしいのである。日本では考えられないような気がした。

何度かオークランドの市街に連れて行ってもらい、有名なオークランド博物館に行くことも出来た。そこには色々な展示物があったが、主に、マオリ族の彫刻などが多かった。

マオリ族というのは、ニュージーランドの先住民であり、現在ではイギリスからの移住民が殆どだが、この国の人口の約9パーセントを占めるポリネシア系の民族である。

今では白人が中心となっているこの国ではあるが、マオリの文化は、ニュージーランド独自のものとして、白人、マオリ両方の手によって、保存され、継承されているようだ。

この博物館ではその文化の代表的な彫刻がほどこされたカヌーや、家屋などが展示されていた。

次に、僕は南島に渡り、第2ホストの家族と生活した。この家はカンタベリー平野のほぼ中央にあるメイフィールドという人口2百人の街で牧場経営をしているところだった。

このカンタベリー平野ではほとんどの家が牧場を経営しており、見渡す限り、牧場が続いているという感じだった。僕が滞在していた家の牧場は、全部で478ヘクタールということだったが、とにかく広い。

普段の日は、一緒にトラックに乗って牧場を回っていたのだが、結局どこまでがその家のものなのかわからなかったほどだ。

We Serve

その広い牧場に、羊5千頭を飼育しており、その他にも鹿、雄牛、など色々な動物を飼っていた。

又、ニュージーランドのどこの牧場でもシープドックを飼っていた。これは、とても賢い犬で、主人の口笛で何頭もの羊や牛を移動させてくれるのである。

この犬には2種類あり、目だけを使い決して吠えることのないアイドック、反対に吠えて羊を小屋などに追い込む、ハンターウェイであり、自分の仕事を確実にこなしてくれる、本当に良いパートナーであり、牧場ではなくてはならないものだそうだ。

聞くとところによると、このところ、羊毛の輸出は好調なのだが、羊肉の輸出があまりよくなく、ニュージーランドの経済にも大きく影響しているそうだ。

このような話を聞いたり、冷たい雨の中で死んだ羊を運んで行くのを見ているうちに、「緑の牧草地と羊」というような写真にある風景としてでなくニュージーランドの生活の一部としての「牧場と羊」を実感することが出来た。

この牧場をあとにして、僕は再び北島に渡り、ネイピアという街で第3ホストの方と生活した。

このネイピアという街は北島の東部にあるホークスベイ地区の中心地で人口5万人というかなり大きな街だった。

又、ネイピアは北海道の苫小牧と姉妹港であり中央部の産地から切り出された木材が輸出される基地となる港湾都市であるということだ。

ある、他のYE生のホストの方は、僕達がネイピアに着く2日前に日本から帰って来たということで、日本の夏のことなどを話して下さった。

このように、木材だけでなく、日本はニュージーランドの顧客国であり、そのためか、親日家の方も多く、とても親切にして戴いた。又、電気製品などは、日本製が多く、車は10台中6台は日本車であり、オートバイに至っては9割以上が日本のものだった。日本経済の底力のようなものを見た気がした。

第3ホストの方は市議会の議員をやっているらしく、毎日いろいろなミーティングに出席をしなければならず大変忙しそうであったが、週末には北島を縦断するドライブに連れて行ってくれるなど、本当に活動的な方であった。

この3番目の家庭に来て、それまでの2つの家庭と共通していることに気が付いた。

どの家の長男もニュージーランドにはいなくて、外国に出ているということだった。

別に長男だけでなく、ニュージーランドの20代前半の人は、外国、特にヨーロッパかオーストラリアに行くことが多いそうだ。

日本人のように観光で、1週間ぐらい行くというのではなく、ある人は大学卒業後1年間ヨーロッパを周っていると、ロンドンで仕事を見つけて移り住んでいるとか、何らかの形で海外で生活することが、当たり前のようになっているらしい。

同じ人種で、生活様式が似ていて、英語で話せるということなども大きな要因であるだろうが、日本にも、そのように自国と違う国を見る事が出来る機会をもてるくらいの余裕があってもいいのではないかという気がした。

このようにして40日間がまたたくまに過ぎて日本に戻って来た。

帰って来て、今思うことは、40日という短い期間ではあったが、日本を離れて、違う文化の国で生活することが、本当に貴重な経験になるということだ。

観光旅行では、ある場所へ行くことが中心になってしまいがちだが、今度のプログラムのように、その国の人々と一緒に生活することによって、日常におけるほんの些細なことから、その国の社会のことまでその本物を体験し、知ることが出来るのである。

僕も、自分なりにではあるが、ここに書いたこと以外にも、様々なことを感じ、考えることが出来た。

このような貴重な機会を与えて下さったライオンズクラブの皆様に対して、本当に感謝しています。

ありがとうございました。



メロデーでコミュニケーション
ワイウクの小学校の仲間



We Serve

LEO·LS NEWS

鴨川LS 戸村 琴子

鴨川ライオネスクラブも誕生してより、1年有余の年月をあとにいたしましたので、いつまでも親クラブにおんぶにだっこでは相すまぬと考え、今年は一人大ちを念じて会員一同努力しております。

楽しいクラブ、意義あるクラブ、社会に愛されるクラブをめざし且又ライオンズのマottoを守り、楽しみながら実施可能な奉仕活動を次々と予定してございます。

月々の例会、理事会の出席率のよき事は即活発な活動のもととなるといえるところでしょう。

本年度の初めに親クラブの招いたオーストラリアの高校生、スーザンさん(16歳)を、旧くから伝わる茶会を催して招きましたところ“ワンダフル、ワンダフル”の連発で、古式豊かな日本の茶の香りの思い出を土産に帰国

させた当たり、ライオネスクラブならではの心尽しといえるものでしょう。

ともあれ今年は、楽しみながら社会奉仕のできるクラブづくりに会員一同専念する事によって、会員増につながるものと確信してやみません。



心尽しの浴衣姿のスーザンさんを囲んでの茶会の一とき



We Serve

CAB NEWS

ガバナー公式訪問

君津LC L 竹内 祐



L小泉昭ガバナー公式訪問の御挨拶

小泉昭地区ガバナーの公式訪問が、9月4日1988～89年度のトップを切って、木更津市パレ・ダ・ムール木更津を会場にして、第5リジョンの8クラブ合同例会の形をとって行われた。

開会定刻15時を待ち切れない様子で、多くのメンバーが1、2階のロビーに集まってくる。談笑の輪がいくつもでき友情の花が咲く。

スポットライトに白服のガバナーが浮かびあがる。万雷の拍手。

定刻15時、司会者5R・PR情報委員L田中秀夫の声がかげ、木更津LC会長L伊藤正章の開会のことば。富津LC会長L鹿島久良の開会ゴング、国旗に敬礼、国歌斉唱、ライオンズヒム斉唱、物故ライオンズへの黙禱。地区役員、クラブ会長を夫々木更津中央LC会長L花沢昭、木更津金鈴クラブ会長L佐久間義徳から紹介。続いて5R・R・CL高木仙造から歓迎のことばが述べられる。ゾーンチェアマン報告について各クラブ会長の報告と日程は続く。ここで待望の小泉地区ガバナーの挨拶を頂戴する。

We Serve

小泉ガバナーは就任の感激を披瀝されながら、地区行政の責任者としての抱負を「高めよう心豊かにL字の誇り」に集約して説かれる。ライオンズクラブへの限りない愛情とメンバー一人ひとりへ注がれる温かい目差しと言葉に、尊敬と信頼の絆はがっちりと組まれていくようであった。

ライオンズの大綱と、LC理念の一貫性を失わない限りにおいて、ライオンズクラブの発想と行動は全く自由なものである。大いに論じ合って、メンバー個々の心のあり方を確立すると同時に、クラブ運営そのものを再点検する努力を惜しまないようにと力説された点、更にクラブの立地的地域対象のアクティビティもさることながら、グローバルな観点からの合同アクトもライオンズクラブの生命であると強調された点ひとしおの感銘であったと思う。

会は記念品の授受、前地区ガバナーの挨拶で一層の盛り上がりを見せウーサーブ、テールツイスタータイム、ライオンズロアーと進行。また逢う日までを絶唱、君津LC会長L広部辰雄の閉会のことば、袖ヶ浦LC会長L尾形勝彦の閉会ゴングで例会の部を終了。

地区ガバナーを囲む懇親会がL梶尾中央会長の開宴、L郡司明元5RR.CのWe Serve。掉尾を飾る。



ガバナーより各クラブ会長に記念品贈呈

ガバナー公式訪問で記念植樹

5RIZCC L. 北 沢 庸 雄

9月4日、333-C地区に於けるL小泉ガバナーの公式訪問が開始され、最初に当5Rに来られました。会場は木更津港の真前の結婚式場パレ・ダ・ムールで開会、5

R8LC及び5LSCのメンバー多数出席され、式次第に従いなごやかに進行致しました。

公式訪問合同例会に先立ち、記念植樹が行われました。前夜来の雨も上がった午後1時、L小泉ガバナーはじめ、キャビネット構成員の皆様が、木更津市民会館前のライオンズガーデンにお立ち寄り頂き、5RL高木RCはじめ地区役員、各クラブ3役及びメンバーがお迎えするなか、にぎやかに行われました。記念植樹された木は木更津市の木でもある「つばき」です。花の名は「笑顔」(ほほえみ)で色は薄いピンクであります。秋も過ぎ冬来る頃、この花は市民会館を訪れる君津郡市民(5R)の皆さんにL小泉ガバナーのお人柄よろしく「ほほえみ」かけ、初冬の季節にはほのほのと咲き誇ることと思います。

ちなみにこのライオンズガーデンにはLCが姉妹提携の記念とか、メンバーの結婚記念とかメンバーの祝い事の時にも植樹され、一種のLCのミニメモリアルパークになっており永久に郡市民に親しまれることでしょう。

なお公式訪問合同例会は、L小泉ガバナーのご挨拶に大変熱が入りまして、幹事よりメモが入る位で大変有意義でありました。

「高めよう 心豊かに L字の誇り」を胸に、決意を新たにした次第であります。



We Serve

ガバナーを迎え、和やかに合同例会 国際メンバーの一員との自覚促す

千葉エコールC 幹事L 遠藤藤五

数10日ぶり、久々に青空の覗いた10月1日、千葉ニューパークホテルで、333-C地区第3R-3Z(市原・千葉エコール、市原南、千葉京葉、千葉京葉LSC、市原南LSC)6クラブによるガバナー公式訪問合同例会が行われた。定刻、ホストクラブ千葉エコールC幹事L遠藤、千葉京葉LSC幹事L波木の司会によりプログラムどおり例会が和やかに進化した。333-C地区本年度スローガン「高めよう心豊かにL字の誇り」を軸に、各クラブも固有のスローガンを掲げ、地域社会のため奉仕活動に精進しますと、千葉エコールC村田会長が歓迎の挨拶を述べたあと、つづいて3R-3Z、ZC加藤悦太郎LのZC報告、所属6クラブ会長報告が行われた。各会長の報告のポイントは市原＝マンネリ化の打破を第一目標に千葉エコール＝エルピザの里への援助等ACTの充実、市原南＝会員増強を、千葉京葉＝生命の電話の整備、エルピザの里等への援助、京葉LSC＝第8回チャリティパーティーの実施、フォスタープランへの参加、市原LSC＝養護学校への協力……など。しめくくり、小泉ガバナー壇上に上り、冒頭、天皇陛下のご病氣快癒を出席L全員とともに祈念したのち、およそ20分間にわたり懇切な挨拶を行った。単位クラブ会長報告のなかで、市原LSC根本会長もクラブ活動として取組むべきことの第一点にマンネリ打破を掲げていたように、全てのクラブにとっても歴史の長さ按比例してマンネリ化傾向が進むのが通例のようで、ガバナーも広い視点で見て、ライオンズマンはいま大きな変革期に入っていると指摘、これの打破にお互いに英知をしほり、努力しようと呼びかけた。また、さき頃国際協会本部を訪れたとき感銘を受けた印象の一つとして「本部には、世界各国の単位会の一人一人の登録が完全に整備されている。一人のメンバーは即国際協会のメンバーであると、肌でそれを実感した。どこの何某と言うと即座にそのLのデータが出てくる。われわれは、単に一地域に於けるLにとどまらない、世界のLであることを自覚しなければと思う」と国際メンバーの一人であるとの自覚を促した。そして最後に「し

かし、Lは自由で、おおらかでなければならない」と結んだ。



市原南ネスクラブ会長よりガバナーへ花束贈呈

年次大会

第35回333-C地区年次大会
船橋市で開催1989.5.14

333複合地区第35回年次大会
十日町で開催1989.5.21



We Serve

ACT NEWS

千葉中央 L C

千葉市長 松井旭氏を名誉会員に招聘

PR情報委員長L. 矢田 常吉

千葉中央ライオンズと千葉市とは特別に密接な関係がある。昭和45年頃、千葉市が外国の都市との姉妹都市締結先を物色している頃、たまたま当クラブと姉妹クラブの話の進んでいたカナダ・ノースバンクーバー市を紹介、これが実を結んで、当クラブとノースバンクーバークラブとの姉妹クラブ締結のあと、両市の姉妹都市協定が成立した。

その年から両市の間、両ライオンズクラブを介して夏期高校生の交換学生の制度が始まり、今年まで19回、途中一度も途絶えることなく続いている。

今回、千葉市長松井旭氏を当クラブ名誉会員に招聘することとし、国際協会へ入会申請をし、本年1月例会において入会式を行った。当日は千葉市内6クラブ並びにライオネスクラブの役員が出席され、複合地区協議会議長ならびに地区ガバナーより祝電が寄せられた。また国際会長より次のメッセージが届いた。

〔国際会長よりのメッセージ〕

親愛なる松井旭千葉市長様――

ライオンズクラブ国際協会は、あなたを名誉会員としてお迎えするにあたり、千葉市内の各ライオンズと共に、その大いなる喜びを分かちあうものであり、またこの名誉ある称号を贈ることは、私たちにとって栄光の至りであります。

ライオンズクラブは世界162の国、および領域において、人道主義的な奉仕に献身しておりますが、日本においては150,000人以上の強力なライオンズメンバーが、誰にも劣らない奉仕を行っています。彼等是不幸な人々の



ためにより良く、かつ実りのある生活ができるよう、終始活動を続けております。

偉大なる貴市の市長として、あなたは私たちの努力に対し、新たな威信を与えるものであり、また、すべてのライオンズメンバーの愛する地域社会に対する奉仕活動を、勇気づけるものであります。

下総中山 L C

今年度のクラブ運営

会長L 大久保 博

最近我がR1Z内の各クラブ共、メンバー数の減少に頭を悩ませているが、当クラブこそその筆頭であり、今後の運営を憂慮している。

クラブ内ではアクティビティの縮小を唱える人もいるが、これは勘違いであり、クラブ活動が活発でなければライオンズクラブとしての魅力が無くなり、会員はさらに減少するだろう。

またアクティビティの縮小によって、一人当りの金銭的負担の減少にも継がらない。

事業資金は、例えばチャリティな催しによって得るものであり、会員の負担でまかなうものではないからだ。

確かに小人数では、運営費会計も楽ではないが、そこに何か無駄はないか、一項目ずつ検討してみると必ず何かあるはずである。

当クラブでは今年度は印刷費の大幅削減を断行した。会報を従来の立派な印刷ものから手づくり会報に切り換えた。

人数が増えるまでは、見栄は捨て、現実には則した運営でいくしかない。

当クラブでは会長経験者が、死亡退会以外は全員が在籍しており、非常に素晴らしい空気のあるクラブであると自負している。

この会長経験者16名の輪のなかに、今年入会した4名の会員に、さらに数名加えて、新しいクラブカラーを作りたい。

前年度末では、会員数30名ということで、危機を迎えたが、その時点がボトムであると考え、現有34名が今年度末40名に達するよう努力している。

ライオンズクラブは全員平等であるが、出席率の悪い会員はクラブ内でだんだん軽視されてくる。

We Serve

しかし、そのような見方はやめ、また出席率の悪い会員にも考え方を考えてもらい、全員が一致協力して少数精鋭の素晴らしいクラブにしたいものである。

役員だけが働くのではなく、全員の力によって成り立っていることを忘れないで欲しい、

わんぱく相撲大会

7月24日 船橋市小栗原児童遊園

参加した小学生、男女合せて約300名。下総中山LC主催で行うため、準備・進行の労力ACT、設営・賞品等の金銭ACT共、当クラブで一番大きなACTとなっている。



柏 L C

少年野球で心燃えよ

会長L 森 下 源

わがクラブは創立23周年の新年度を迎え「育てよう心豊かなアクティビティ」との会長方針を掲げて、なかでも特に青少年の健全育成に力を入れることにしております。その手ははじめに新大型ACTとして、柏LC少年野球を発足させました。

与えるACTでなく、育てるACTという考え方に立ち、また青少年対策については、少数のいわゆる非行問題にばかり目を向けるのではなく、大多数の99%いい子を対象に、彼らがますます100%いい子に育つようにという視点を据えているのです。

そうした観点に立って、まず7月13日、写真のように市内50チームを統合して盛大な発会式を行い、またこのほどそのシンボルの優勝旗も立派なものが出来ました。予選はすでにトーナメント方式ですすめられており、この地区ニュースが発行されるころには決勝大会も終了しているはずで

また野球だけでなく、実はわがメンバーのL萩原が会長をし、L吉田とL岩井が副会長をつとめている市民柔道大会にも、この秋季大会から柏クラブが積極的に支援することとし、継続事業として発展させて行くこととしました。

一方、非行対策についても、柏警察、同保護司会、更生婦人会とタイアップして7月30日、「防ごう非行・助けよう立ち直り」のスローガンのもと大々的な街頭キャンペーンを展開して成果をあげました。

これらのACTの資金対策ということもあって、この11月4日には、新事業としてチャリティ・ダンスパーティを華やかに行い、100万円以上の収益を捻出することが出来ました。ACTのための収益事業としては、すでに本年で11回目を迎えたチャリティゴルフも10月17日行い、青少年健全育成、老人福祉関係への寄付として、累計して車両5台、金銭は600万円にのぼっております。各方面の絶大なるご協力に心から感謝している次第です。



浦 安 L C

チャリティゴルフ大会

広報委員会L 鹿野新一郎

浦安ライオンズクラブ最大のアクティビティ資金獲得事業であり恒例となりました、第7回浦安LCチャリティゴルフ大会は、9月5日(月)に姉ヶ崎CCにて実施いたしました。すっかり地元に着定して毎年心待ちにしている下さる参加者が、本年度は490名を超えました。

メンバー一同、うれしい悲鳴で大張り切り。心配された天候もまずまずで、大盛況のうちに無事終了することが出来ました。

地域の人々から親しまれ、かわいがられる事業として、これからも益々発展させていきたいと思っております。これによって得た収益金をまた地域に喜んで受け入れられる



We Serve

アクティビティで還元してまいりたいと思います。何よりもメンバー一人一人の協力の輪が大きく広がったことが最大の収穫でした。

因みに賞品の主なものをあげますと、カラーテレビ8台、冷蔵庫2台、洗濯機6台、自転車47台、バイク1台国内旅行ペアで1組、ホテル1泊をペアで3組等、その他盛り沢山の賞品でした。(獲得資金 3,912,760円、労力ACT27名×10時間=270時間)



千葉エコーLC

献血ACT

PR情報委員長 L 石川 忠 正

1988年9月20日、JR千葉駅前AM9:00~PM16:00 14名参加。千葉京葉ネスクラブより9名の参加を得て、実施いたしました。

受付者	111名	(不適者 18名)
採血者	61名 200cc	12,200cc
	14名 400cc	5,600cc
計		17,800cc

献血者へ記念品	75,020円
労力ACT	14名 70時間



9・20 JR千葉駅前 9:00~16:00

ライオンズデー

千葉エコーLCは、例年どおり、早朝7時から千葉市中央公園の清掃ACTを実施した。

この日参加したメンバーは村田義一会長をはじめ18名で、広い公園と周辺の道路を清掃、快よい汗を流した。

竹ぼうき、熊手、ちりとりなどの清掃用具は、毎年市内の小学校へ寄贈するが、今年は千草台小学校へ、この日の朝、ただちに届けられた。



献血者の途切れた合間に一息入れる
右から保健公衆安全委員長 L 中村新一郎、第一副会長 L 渡辺清、幹事 L 遠藤藤五の諸氏



松戸東LC

どしゃぶりの中での献血アクティビティ

会長 L 田原 俊 夫

雨天決行ときめた今期第一回献血アクティビティが、9月25日(日)実施されました。

朝からの小雨模様の中、クラブテントを始めクラブ会員が準備をする中で会員一同、今日は皆さん来て下さるかな……の想いのうちに受付開始され、それと同時に雨足も強くなり、広報班は2台の車にて新松戸街道を献血参加への呼びかけに走り廻りました。

時間の経過と共に雨も一段と強くなり、会員一同、参加数の心配をしておりましたがそれにもかかわらず最近のテレビ等での献血の大切さを痛感している事もあり、赤い手帳を手にとくさんの人が献血に来て下さり、メ切り4時迄には参加者310名という多数によって、第一回



We Serve

血アクティビティを終了する事ができました。

会場を撤収する時は全員ずぶぬれでしたが、最悪の天候にもかかわらず多数参加して下さった結果に会員一同過去にない喜びと満足感を味わう事ができました。

御協力ありがとうございました。



君 津 L C

ライオンズデー

ライオンズの森設置15周年事業レポ

1973年チャーターナイト5周年の記念事業として、設置されたライオンズの森の意義を認識し、今また開発の進むなかで「緑の大切なことを」考えようとして……

7月末環境委員会で計画の具体化を開始以来、ネス、レオ3クラブ合同に決定して、10月8日の世界奉仕デーまでの短期間に実行することになった。

当初クラブ内の内々の簡素の記念事業を計画していたものが、設置当時在籍、この事業にたずさわったL杉浦、L糟谷、そして当初から国旗の掲揚を継続してくれている元メンバーの佐久間惣治氏などから当時の苦労話を伺ううちに、「単位クラブでこれだけの森を有するクラブはそうは無い」「雨天以外毎日、日の丸の旗が掲揚されているライオンズの森も全国にも無いだろう」と聞かされ、予算が無いから出来ないでは済まされなくなり、積年の課題の国旗掲揚ポールの新設に加え来賓をご招待しての式典に森に関する記念誌の発行と計画拡大特別例会に変更。

会長を委員長にしてネスと合同の実行委員会を組織して対処することとなった。

森を含んだ10・8奉仕に関しては特別委員会で作業の内容を計画、君津駅、道路の交通安全看板とカーブミラーの掃除、ネスとレオは君津駅周辺の掃除とフラワーポッ

トの手入れ、と分担決定。

森の整備は環境委員会で計画、樹木の手入れ、国旗掲揚ポールの新設、森での式典の会場作り。

式典・懇親会は、ネスと共に、計画委員会、事業委員会、LT、TTが当たることとなった。

天皇陛下の病気とのかかわりで、理事会で議論、「記念の集い」「食事会」と呼称変更準備はしたものの10月6日の直前理事会で、内容も更に自粛し簡素にし、歌う事も法度と決定。

森の整備は環境委員会を中心に6日までに完了したものの、10日は雨天のため奉仕作業は中止を余儀なくさせられ、集いも森での実施は諦め、雨天の場合の会場の君津クラブにて開催。

集いの会場から来賓の方々に風雨のなかを森の実態を見て戴くためマイクロバスで送迎、君津市長、森の国旗掲揚を継続している佐久間氏、設置当時の関係者和田氏とガバナーL小泉をはじめライオンズ関係者多数の方々の出席を戴き、会長のゴングは若干遅延して開会、来賓各位にご参会を謝し、先輩ライオンの先見の明と熱意に敬意を表し、森を再認識して育てる決意を表明して挨拶を閉じた。

先輩の苦労の中で誕生した森の経過説明後、佐久間氏に感謝状と記念品を贈呈、来賓各位に、会長書「緑を大切に作る心」を扉に入れた手帳をネスメンバーの手で贈呈。

来賓の挨拶にも開発の中での緑の森を大切にしたいアクトとして称賛を戴き、更に大切にしよう励ましの言葉を頂戴して、今回の集いの意義が確認された。

続いての食事会のなかのL杉浦「無償の愛、月の兎」の話しに併せて、ネスメンバーのアイデアの、手作りの「卵の月と兎に団子の菓子」は好評で、「記念誌とともに土産として持ち帰られた方が殆どだった。

雨天のため、森での集いが実施出来ず、元ガバナーL平井の公式訪問記念樹、銚子レオとの交歓記念樹、L杉浦のガバナー就任記念樹、レオのプランテーション、新旧2本の国旗掲揚ポールなど、君津ならではのものを、十分見て戴けず残念であった。

自粛の中での食事会の為、殆どの時間をフリートークとしたため、懇親ははかられたものの、盛り上がりにかけたことは否めず、計画委員会がせっかく準備したもて



We Serve

なしが出来ず心のこりであった。

しかし翌日は快晴に恵まれ、当地に一泊されたL小泉ガバナーとL木下キャビネット幹事に多忙の中を森まで同行戴き、新旧2本のポールに、国旗とクラブ旗を掲揚し、記念植樹をして戴けたのは望外の喜びであった。

松戸ユーカリLC

駅前清掃作業

10月8日ライオンズデー、当クラブは、新松戸駅前ユーカリの泉の掃除に32名の会員が参加して、高橋昌夫L環境保全委員長の先導で2時間余りに亘り行いました。

ユーカリの泉は地区住民の災害対策として、万一地震等により水道が止まった時の用意に生活用水として利用出来るように一周年記念事業として作ったものですが、これが汚れがひどくては何にもなくなり、又「さらさら」音を立て、溢れる水の音、駅前の美観も左右しかねますので皆んな元気一杯です。

作業途中に降り出した雨に濡れながら、並木家進Lの持ち込んだ噴射式コンプレッサーが唸り声を上げて最後まで頑張っていました。



千葉若潮LC

献血ACT

会長L.松永良夫
保険安全社会福祉委員長L.山中右一

最近の動向として献血に対する協力が低調になっているとの噂があるので、去る10月15日行った吾がライオンズクラブのACTをより効果的に市民の協力を得るため事前にハガキやチラシをもって町内や各職場、知人に協力要請を行い、当クラブの役員会においても総力を挙げて実施にのぞむことを誓い合った。その結果、当日は好

天にも恵まれ、メンバーの3分の2に当たる25名の出席もあり、献血に協力いただいた結果は次のとおりです。

記

適 格 者		不 適 格 者	合 計
200cc	400cc		
116人	37人	17人	172人



市 原 L C

秋の交通安全週間ACT

昭和63年9月21日、恒例の秋の交通安全パレードが華やかに行われました。写真は市原ライオンズクラブのパレードに参加を致しました時の1枚です。

市の交通安全課が企画して行われ、パレードの先頭に望洋高校のバントアラー、消防局のバンド、オープンカーに市長、ミス市原・準ミス、市議会議長が乗り、その後より警察関係、各種団体と沿道の見物の方にPRを兼ねた粗品をくばり、交通安全に対し深いご理解ご関心を頂き、少しでも事故のない住み良い市原市が出来ればと思う次第であります。

交通安全パレード参加を致しました後、市内にあります交通安全看板塔の周りの清掃を行い良い汗をかき、またあう日までと解散を致しました。



▲市街地パレード

◀標語を記した立て看板の前で

▼市街地パレード


市原南 L C

秋の交通安全週間 ACT



◀出発式

▶市街地パレード


 ▶と共
 終了後、
 L及びLS役員

千葉中央 L C

「梅の木」についての御報告

L 矢田 常吉

先般来調査をいたしておりました「梅の木」植樹の希望については、18クラブより希望申し出がありました。希望申し出が予想以上に多かったためその後、千葉県当局（都市整備課）の接渉し、ライオンズクラブ関係として約5000本弱と決定しました。その後、当該クラブと個々にお打合せの結果、別表の通り分譲本数を決定いたしました。分譲受渡時期は10月末でした。

なお千葉県当局としては、青葉の森公園へ4000本、その他の県立公園（富津・館山・蓮沼）へ1000本、合計5000本植樹の計画であります。

以上、御報告申し上げます。

「梅の木」希望数調査

クラブ名	植樹場所	面積	希望数	分譲決定数
習志野	市内幼稚園、小・中学校		300	200
習志野中央	公園課、保育所			
〃	花の実園梅林公園			
成田	甚兵衛の森	300坪	150	150
酒々井	公園		50	50
千葉中央	千葉市農政センター		500	300
〃	千葉市乳牛育成牧場			
〃	八街不動院		30	30
八日市場	市内小学校10校、中学2校		300	200
〃	野栄町小学校2校、中学1校			
〃	八日市場市内公園			
館山	市内小中学校Leo植樹ACT		150	500
館山北	妙音寺境内		200	
館山中央	三芳村宝珠院境内	3000坪	200	
富津	市民の森公園	2ヘクタール	5,300	3,500
計			7,180	4,930



We Serve

行徳ライオンズクラブ チャーター・ナイト10周年記念式典

行徳ライオンズクラブチャーター・ナイト10周年記念式典を、9月25日(日)市川グランドホテルにおいて、高橋市川市長をはじめ、地元ご来賓並びに国際協会333-C地区ガバナーL小泉昭、キャビネット役員、ブラザークラブ、姉妹提携クラブの中華民国台北市稻江国際獅子会の方々約300名の参加を得まして、盛大に挙げることができました。

行徳ライオンズクラブは、1978年9月下総中山ライオンズクラブのスポンサーにより誕生し、おかげさまで10歳、になりました。

この10年を振り返ってみますと、歴代会長を中心に数多くの奉仕活動と、クラブの運営に精進して参りました。

午後3時、幹事L佐藤一明、ナレーター大淵由美子による司会で進行。

会長L陰山健喜の開会のゴングで式典幕開け、L手塚信男の開会のことば。

L小山善次郎式典副委員長の熱烈なる歓迎のことばで、10年間の歩みの中で、予期せぬ障害に苦難の道をさまよいましたが、クラブ員一同強い団結により立派に立直りつつあります。本日茲に10周年記念式典を挙げることは、皆様方のご指導ご激励の賜と厚くお礼申し上げます。のあいさつ。

L小泉昭ガバナーから「国際協会においても、ライオンズクラブの意識改革を含めて過去のマンネリ化を排除して、クラブの活性化のため、今、大胆ともいえる改革路線を提唱しており、10周年の契機に合わせて、新生行徳ライオンズクラブの大いなる飛躍を期待している。」



挨拶する小泉ガバナー



会長 謝辞



◀アトラクション
抽せん会



というあいさつがありました。

次いで、スポンサークラブへ感謝状及び記念品の贈呈、姉妹クラブへの記念品贈呈、特別功労者賞歴代会長、10周年在籍賞の感謝状贈呈、引続き10周年記念事業の発表、市川市へ第15代当主浅子周慶氏の協力を得て、神輿1基を寄贈、14団体に寄付金並びに助成金を贈呈、次いで、愛の献血運動・青少年健全育成の特別協力者に対し、感謝状の贈呈を行い式典を終了。

10周年記念事業ACTは、

1. 市川市へ御神輿 1基。
2. 市川市青少年教育国際交流基金としての寄付。
3. 市川市社会福祉協議会へ助成金。
4. 財団法人千葉県警察育成会へ育英資金としての助成金。
5. 青少年健全育成として助成金。
 - (1) 市川市青少年相談員連絡協議会第11・第12・第13地区へ。
 - (2) 角親会へ(少年すもう大会)。
 - (3) ボーイ・スカウト市川第5団・第6団へ。
 - (4) ガール・スカウト千葉県第50団・第81団へ。
 - (5) 日本赤十字社千葉県支部市川地区奉仕団へ。
6. 市川市へ「海をきれいにしよう」大型看板寄贈 2基。
7. 市川市消防局音楽隊へプレザー寄贈。

総額750万円の記念ACTを行い、各代表に贈呈。

第2部の祝宴は、L寒川一郎の司会によりIRR.C



We Serve

L平川進の乾杯の音頭で開幕。

アトラクションは、内海桂子、好江の漫才。

次いで、L川上式典委員長による「ラッキーカード」の抽せん会。

IRIZゾーン・チェアマンL長谷川一吉のライオンズローアで緊張をほぐし、「また会う日まで」を全員で合唱、和気藹々の中に10周年記念のすべての行事を終了。

ライオンズクラブのACTとしては、海外に目を向けることも必要ですが、やっと10周年記念式典を終了してこれからが本当のライオンズマンとして、意識をもてるような感じと、何れにしても10周年ということは大変なことである。

地域にあったクラブ活動をすると同時に、手固く会員増強をしていきたい。

10周年を終えて、やっと勲章を得たような気持です。10周年を通していろいろと勉強をいたしました。

今後とも皆様方の一層のご指導ご鞭撻をいただきながら、信頼と友情の輪を広げ、ライオニズムの本義に副って精進して参ります。

会報編集研修会が開催される

4R PR情報委員L 小林利弘

4R (R. C. L. 長島 彪)では、10月15日(土)佐原市中央公民館に於いて、R内14クラブから50名の会報発行関係ライオンが集まって、会報編集研修会が開催されました。

当日はキャビネットからPR情報委員長L・小石税、地区ニュース編集委員L・富士原勇、前4R・PR情報委員L・島田秀雄の各ライオンを講師にお招きして、格調の高い、熱気にあふれた研修会が開かれ、懇親会后、散会しました。



新入会員入会式

—ビデオに依る新入会員の紹介—

柏グリーンLC

新入会員があってもなかなか会に馴染めない。これが新入会員育成の「ネック」となっていたが、当クラブではビデオの導入によって新旧会員の障壁がいきに取り払われ「楽しい例会づくり」に、一歩近づいた。「例会は楽しくなければいけない」これが歴代会長の口ぐせである。新人の会員が、クラブ会員皆んなに打ちとけるにはどうしたらよいかが悩みの種だった。これまでは、スポンサーが各メンバーに紹介して名刺交換したり、自己紹介をしたりして来たが、どれもヒットとは云えなかった。そこで生まれたのが、ビデオとテレビを使って新入会員を紹介する方法だった。これは当クラブのPR情報委員会の発案でつくり出されたもので、新入会員があると従来からの説明会、入会式に続いてPR委員長がインタビューとなり、①家族構成 ②会社の業務内容 ③趣味 ④健康法 ⑤これからのビジョンなどを聞き出し、これを例会の食事時間を利用して大型のスクリーンに放映して行うもの。これによって新入会員の仕事ぶりから家族、趣味などがわかり、より一層親しみが湧いて来る。会員からも「隣りに座っていても、旧知の仲間のような気がする。」と好評で、小川会長も「新入会員が、なかなか会に馴染めなくて困っていたが、ビデオだとその人の会社での活躍ぶりがよく理解できる。」と大喜びの様子だった。又、当クラブではこの他にも1、2年生会員と理事との懇親会も開いており、新入会員の育成に大いに力を入れている。



We Serve



私はゾーン・チアマン

1R.2Z.ZCL 皆川 春安

私は去る7月からゾーン・チアマンを拝命し、緊張に身をかたくしている。挨拶一つでも、思ったように口は開かず、歓迎の拍手が大きければ大きいほど、演壇が高ければ高いほど胸の動悸は抑えられず、ただただこれ修業の道と考えて励んでいる日々である。

そんなある日、甲子園の高校野球を見ていて、チアガールの応援ぶりに感心した。母校を愛するが故に手振り身振りに熱が入り、勝っては涙し、敗けても目頭を熱くする。テレビに映ったその光景をこちらが貰い泣きしている始末だ。

ふと、そのチアガールのチアを辞書で引いてみた。そこには「励まし、喝采、歓呼とか、気分、機嫌」とある。そこでチアをチアに重ねてみた。ゾーン・チアマン「椅子の男、議長」が、ゾーン・チアマン「励ましを贈る男」に変身する。

各クラブが活動する上で、キャビネットの存在は縦糸

に例えられる。クラブが横糸を編めば縦糸が加わり、見事な織物となる。文字通り「一糸乱れぬ」組織は芸術そのものである。どのように織れるか、それは一年間の人間関係にある。それだけに与えられたポストをみんなが全力を尽くす姿は、実は自分に対する励ましの叫びであり、生き甲斐となる。

私はゾーン・チェアマンが「まとめの議長」であると同時にゾーン・チアマンであつたらもっと楽しさが増すのではないかと考えている。いまの世はアメニティ時代というのだそうで、アメニティとは、心地よさとか、感じがいいとか楽しみという意味を持っているという。だが楽しみ方も人によって違うと思うが、まず、身体も心も健康であることを願い、少しでも生活に笑いをとり入れることが大事だと思う。つまり、いつでも「笑い仕掛人」となることである。実際には人の前で笑われる人になるのは思ったより難かしく、つい真面目で、堅い話になってしまう。そこで、「笑い」を介して、ユーモラスに話しをする法を身につければ、聞いている方も、話をする方もアメニティとなる。ガバナーはおじいさま、リジョン・チェアマンはお父さん、そしてゾーン・チアマンは兄貴だと思ったらどうだろう。仲々親父までは言えないことでも、兄貴なら気安く言えるだろう。それがライオンズ一家の繁栄にも連なると思う。

先日、諮問委員会の報告の中に、ゾーン内に余興等に出演できる人のリストはあるかとの問いがあったが、こうしたことを取り上げる大膽さというか、関心事には感心した。そこには、心のゆとりを感じさせる表現とも受けとれ、たとえ、素人演芸の域であっても、観客は楽しんで頂けるものと大いに勉強になった。

実は、私が所属するクラブの周年行事には、殆んど芸能人は呼ばず、自作のシナリオと、メンバーの出演によるブツつけ本番の演技をご披露する。時には、子や孫クラブの応援を得ることもある。昨年はこちらがじじばばに扮すれば、子がお腹を大きくして、孫クラブの誕生に協力、親子3代揃ったところで「親亀こけたら」を披露し、喝采を得た。

今回の公式訪問では、ゾーン幹事と、テープを持ち込んでひょっとこ・おかめを演じた。お面をとって見て、観客はさぞびっくりしただろうが、「気が合っている」と賞められた。



We Serve

はじめは「ドン・チャカマン」と異名もあったゾーン・チェアマンだが、今ではこの一年「ゾーン・チアマン」に徹しようと思っている。

千葉いのちの電話開局について

千葉京葉LC幹事L 日下忠文

1953年、一人の若い女性がロンドンで自殺したことをきっかけに、友人、関係者が集まって、電話による24時間の自殺防止のボランティア活動がはじまった。

その後、この運動は急速に世界40ヶ国に広まっていったが、担当する電話相談員も単に善意だけの市民であるということではなく、一定の専門講義、訓練を受けた真に心の危機を支え、癒すことが出来る専門的ボランティアへと、ますます充実したものとなっていった。

日本では1971年に、東京いのちの電話が開局され、以後国内では30ヶ所で行われており現在、愛媛と千葉で開局準備中です。

電話という若者にはなくてはならない文明の利器を、「いつでも、どこからでも、誰からでも」のモットーのもとに簡単な電話カウンセリングに応用することは親、友人にも話せない悩み、苦しみのある人や、世間の目を気にして精神科受診をためらっている多くの方々に対して心の支えの手を差しのべる極めて有効な方法です。他方、自治体、各種団体が行なっている電話相談は殆んどが個別問題処理、助言型であって、心を癒してくれるものはありません。この「いのちの電話」活動は訓練されたボランティアによって全く無償で行われる政治、信条、イデオロギーにとらわれない全く新しい型の精神運動、市民活動であります。

この活動を維持・運営するためには相談員の募集、訓練、通信費、講演会、電話相談室3個、事務室、面談室等の賃貸、後援依頼通信費（年間5～7万通）等の莫大な資金、労力を必要とします。更に3～5年後の社会福祉法人化を目指すには巨額の資金が必要になります。

千葉いのちの電話事務局では、来年10月1日開局に向けて、現在216名のボランティアを訓練しており、千葉いのちの電話だよりを発行し、約1万通の後援依頼を発送して、6百万円程の御支援をいただきました。

以上の如き、千葉いのちの電話運動の主旨、運営の困難さを理解して、この精神運動は真に今後の社会のニーズに合致したものと認識に至り、千葉京葉ライオンズクラブとしてはクラブ結成20周年を記念して、今後ともこの活動を後援していくことになりました。

このいのちの電話運動は、くり返しますが莫大な資金、労力を必要とし、又全県民の理解をいただいで、一大県民運動として発展させていかなければならないものであり、各クラブの御協力、御支援もお願いする次第です。



あいさつする佐藤吾三千葉県衛生短期大学学長



第1回ボランティア論の木田講師

皆様の投稿をお待ちしております。私たちまでご連絡ください。

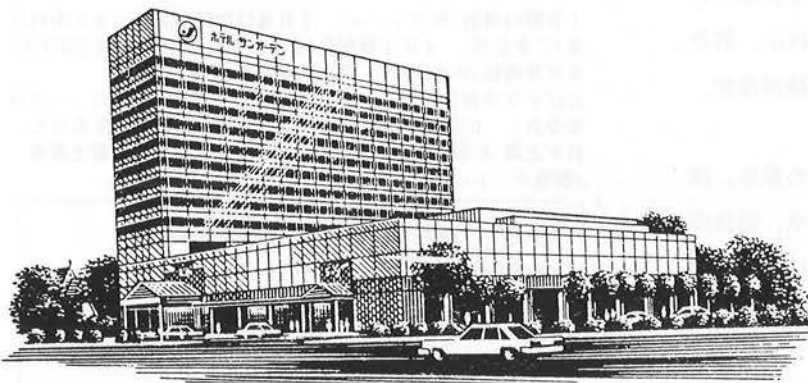
- 1 R野口清治(柏グリーン) 2 R滝口政雄(船橋) 3 R中村可夫(千葉若潮) 4 R小林利弘(佐原) 5 R田中秀夫(木更津中央)
- 6 R片岡和(房総勝浦) 7 R東條安夫(上総一宮)
- 地区PR情報委員長L. 小石税(船橋ポート) 地区ニュース編集委員L. 川尻誠一(船橋ポート) 地区ニュース編集委員L. 鈴木正興(船橋ポート) 地区ニュース編集委員L. 富士原勇(船橋ポート)

1988年(昭和63年)11月12日 印刷
 1988年(昭和63年)11月15日 発行
 発行所 千葉市問屋町1の55 シーオービル6F
 ライオンズ国際協会333-C地区
 キャビネット事務局
 印刷所 船橋市高瀬町32番地
 (株)総合印刷 新報社
 電話 0474-31-9166



白いチャペルのウェディング ご婚礼ご予約承り中

豪華特典付き



- 客室 243室
- 大中小宴会場 7室
- 和洋中レストラン
- 神前式場
- 教会式場
- 純日本建築迎賓館
- 専用駐車場 150台



ホテルサンガーデ^ンららぽーと
船橋市浜町2-1-1 ☎(0474)31-7531